

教界ニュース

日本福音同盟第25回総会

JCE5後の計画を展望  
竿代宣教委員長「危機を逆手に取る協力を」

日本福音同盟(JEA)は5月31日から6月2日、静岡県掛川市のヤマハリゾートで第25回総会を開催、昨年9月札幌市での第5回日本伝道会議(JCE5)を受けて、これからの展望・活動計画が焦点となった。また、今年10月に南アフリカのケープタウンで開催される第3回ローザンヌ世界宣教会議「ケープタウン2010」を前に、ローザンヌ運動のダグ・バーサル総裁が同会議の目指すところを概説し、これからの世界宣教の行方について講演。JEAは2010年度活動計画で、同会議への協力を確認した。

【根田祥一】



韓国から3人の代表(前列右)を迎え記念撮影するJEA理事長。前列左から原田新理事長、中島前理事長。円内バーサル氏

JCE5を受けて、同会議宣言文起草プロジェクトリーダーの岡山英雄氏(JEA神学委員長)と企画推進プログラム局長の竿代照夫氏(JEA宣教委員長)が登壇。岡山氏はこのほど出版した『札幌宣言 21世紀における教会のチャレンジ』の概要を紹介し、「危機の時代における宣教協力」を模索した「札幌宣言」の内容を解説。特に、東京神学大学教授の芳賀力氏、聖学院大学教授の藤原淳賀氏、虐待児な

を模索した広範な論議によって「札幌宣言」が深められている。岡山氏は、「この本を読書会などで読んで課題が理解され、深められて、次の伝道会議で用いられることを願っている」と述べた。竿代氏は、宣教協力の基礎は教会の公同性にあると理解。極端な個性主義から公同主義へ、JEA外部から各分野の識者を迎え、同書の後半に収録した2つの座談会の意義を強調した。これら座談会では、危機の時代を超えて教会は何を指すのかをめぐり、教会論・宣教論・国家論、そして家庭・子ども・分断された人間関係・メンタルケア・自死の問題などの危機に対し、関係性を回復させる教会の使命

を模索した広範な論議によって「札幌宣言」が深められている。岡山氏は、「この本を読書会などで読んで課題が理解され、深められて、次の伝道会議で用いられることを願っている」と述べた。

竿代氏は、宣教協力の基礎は教会の公同性にあると理解。極端な個性主義から公同主義へ、JEA外部から各分野の識者を迎え、同書の後半に収録した2つの座談会の意義を強調した。これら座談会では、危機の時代を超えて教会は何を指すのかをめぐり、教会論・宣教論・国家論、そして家庭・子ども・分断された人間関係・メンタルケア・自死の問題などの危機に対し、関係性を回復させる教会の使命

方での協力が必要との認識を示し、JCE5後のロードマップを提示した。昨年11月にプロジェクトリーダー会を締めくくった後、今年10月にケープタウンで開催される第3回ローザンヌ世界宣教会議「ケープタウン2010」を前に、ローザンヌ運動のダグ・バーサル総裁が同会議の目指すところを概説し、これからの世界宣教の行方について講演。JEAは2010年度活動計画で、同会議への協力を確認した。

今後取り組んでいくべきこと何かを討議した。総会は10年度活動計画で、前回総会で次期JCE6を2016年に開催し、以降原則として7年間隔で伝道会議を開催すると決議した。準備室の設置を承認した。準備室の構成は、担当理事(室長)、総主事、宣教委員会委員長、前会議事務局経験者、前会議プログラム局長経験者の5人。継続するプロジェクトのフォローアップ、宣教フォーラムのバックアップをし、JCE6開催候補地を11年6月までに決定。13年にJCE6実行委員会を立ち上げるための準備を行い、

また、総会2日日夜には、ローザンヌ世界宣教会議総裁のダグ・バーサル氏が、米国の自宅からスカイプで講演。今年10月に開催する「ケープタウン2010」の意義を説明し、今後の世界宣教の行方を述べた。

JEAは日本ローザンヌ委員会(金本悟委員長)に宣教委員の末松隆太郎氏を派遣している。今総会でも、総会2日日夜には、ローザンヌ世界宣教会議総裁のダグ・バーサル氏が、米国の自宅からスカイプで講演。今年10月に開催する「ケープタウン2010」の意義を説明し、今後の世界宣教の行方を述べた。

JEAは日本ローザンヌ委員会(金本悟委員長)に宣教委員の末松隆太郎氏を派遣している。今総会でも、総会2日日夜には、ローザンヌ世界宣教会議総裁のダグ・バーサル氏が、米国の自宅からスカイプで講演。今年10月に開催する「ケープタウン2010」の意義を説明し、今後の世界宣教の行方を述べた。

JEAは日本ローザンヌ委員会(金本悟委員長)に宣教委員の末松隆太郎氏を派遣している。今総会でも、総会2日日夜には、ローザンヌ世界宣教会議総裁のダグ・バーサル氏が、米国の自宅からスカイプで講演。今年10月に開催する「ケープタウン2010」の意義を説明し、今後の世界宣教の行方を述べた。

迫害、移住、信仰復興の歴史  
学び未来の宣教ビジョンへ

MB150年記念大会

普遍的に「絶対こうだ」という世界宣教はない。弟子化も一つにはまとめられない。最もふさわしい弟子化は地域教会、社会にある。現代は技術も聖霊も与えられている。弟子化は壮大だが不可能ではない。聖霊の導きの中に可能性があり、私たちは再臨を信じる最後の世代となるだろう。

アナバプテスト運動(幼児洗礼を否定し、信仰告白に基づく洗礼を主張)に身を投じ、カトリック教会、プロテスタント教会と一線を画した、徹底した聖書に基づく改革を実践した。この「メノナイト」はヨーロッパ各地に広がったものの厳しい迫害にさらされ、やがて18世紀後半、ロシア帝国の招聘に応じ、12万もの人々がウクライナへ移住していくこととなる。

よって信仰復興が起り、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

エンジンバラから100年 東京会議で何が語られたか④

弟子とは、イエスのようになり  
生涯イエスに従う生き様のこと

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、

すべての人を弟子とするは「すべての人に」である。人間的な関係から作られるための聖書の根拠とる。世界宣教の中心は弟子にあり、生涯イエスに従う生き様である。イエスは、カルトや異端になり、まず出て行くこと、



ドイツ中西部で開かれた記念大会に各国から参加者が集まった

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。

今回の記念大会(一面)は、メノナイトフレザレン教会がロシアに誕生した。現在は、世界20か国を超える国々で信仰者が起こされている。



「私はもとより、農業に関する事柄を調査すべきであったが、大博覧会場にて最も意外に感じたのは、耶穌教の経典パイプが多数陳列されていた事である。1873年(明治6)、ウィーンで開かれた第6回万国博覧会に参加した津田仙の驚きである。津田仙は武士の出身でわが国の農業改革のパイオニアになった人物。そもそも万国博覧会が始まったのは1851年のロンドンからで、ウィーンには日本政府が公式参加している。ところで、初期にはヨーロッパ中心での開催ということもあり、万博にはキリスト教を宣伝するパビリオンが常設していた。1970年の大阪万博でも、工費1億円をかけたキリスト教館が異彩を放っていた。6月初旬、上海万博会場を訪れた。期待はずれだった。奇抜な建物が並ぶ会場は活気にあふれていたが宗教館は見あたらない。上海万博のテーマである環境問題を扱ったテーマ館にも閉古鳥が鳴いていた。クリスチャンが1億人はいると言われる中国だが、信仰の世界についての政府の対応は発展途上だ。だが現地で出会ったクリスチャンの多くは、中国の霊的覚醒を信じている。とりなしの祈りは熱かっ